

一人ひとりの自立をめざした学級づくり

I 主題設定の理由

社会生活の激しい変化の中で、子どもの生活様式や生活の意識も大きく変わってきた。現代の子どもたちは、自己の利害や損得に関わるものには敏感に反応するが、人とのつながり、思いやりの心という面では希薄になってきているように感じる。いわゆる自己中心的な考え方が強く、自分さえよければよいといった風潮があり、他者を省みない傾向がある。そうした中で、「学級崩壊」「いじめ」「不登校」など様々な問題が起きてきてしまっている。

学校での「学び」の基本は、学級集団にある。一人ひとりの子どもが仲間として、お互いに認められ、楽しく生活していけるような「居心地の良い集団」づくりが大事である。居心地のよい集団、すなわち「一人ひとりが認められる学級」にしていくためには、学級の一員としての意識を一人ひとりに持たせることや学級集団をよりよくしていこうとする気持ちを育てていかななくてはならない。

そこで、本部会では、「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」を主題とし、子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための手だてについて研究をし、日々の実践に生かしていきたいと考えた。

II 研究の内容

1 研究の方法

- (1) 各個人の取り組みや実践を発表し、研究討議する。

レポートの例：

エンカウンター、特別活動の充実、学級会の進め方、班長指導、朝の会・帰りの会の進め方、係活動など学年の発達段階や各クラスの実態に応じた「自立をめざした学級づくりの手だて」について。

- (2) 講師を招き、「学級づくり」についての研究を深める学習会を行う。

- (3) 授業研究を通して「子ども自らがよりよい学級集団を築こうとする自主的・実践的な態度を育てるための手だて」について学習を深める。

2 研究の具体的内容

- (1) 第1回研究会

今年度の研究の方向性の確認・・・研究テーマ、研究方法について

- (2) 第2回研究会

年間計画について

- (3) 第3回研究会 実践発表

- ・集団を高めていくための「目的達成法」の取り組み（5年）
- ・お互いのよさを見つけ、認め合い、高め合える仲間作りへの取り組み（5年）
- ・班づくり、係活動を通じた集団づくり（2年）
- ・自治的な力をつけるため、話し合い活動に力を入れた実践（2年）

- (4) 第4回研究会 実践発表

- ・自主学习、係り活動、児童会活動への取り組み（6年）
- ・居心地のよいクラスをめざして学級への所属感を高める実践（4年）
- ・ひまわり教室（情緒障害通級指導教室）での取り組み（5年）

- (5) 第5回研究会 学習会・実践発表

- ・「一人ひとりの自立をめざした学級づくり」

～今、一番大切なことは～

～講師：太田充先生（双葉東小教頭）～

実践発表Ⅲ

- ・朝の会・帰りの会，係り活動を通して自主的な活動を願った取り組み（2年）
- ・話し合い活動を通し，集団を認め合い高め合う取り組み（2年）
- (6) 第6回研究会 授業研究
 - ・話し合い活動を通して，自主的・実践的な能力を育てるための実践学活「係を決めよう」（4年）
- (7) 第7回研究会 実践発表
 - ・自治的な力をつけるための日々のさまざまな実践（1年）
 - ・居心地のよい学級づくりをめざしたソーシャルスキルの取り組み（2年）
 - ・運動会の取り組みなどを通し，自主的な活動や認め合う学級づくりをめざした実践（4年）
- (8) 第8回研究会 実践発表
 - ・自主的に行動できるクラスをめざしたさまざまな取り組み（1年）
 - ・意欲的に活動する班活動や係り活動をめざした実践（3年）
 - ・小規模校での取り組み。少人数の子どもたち一人ひとりが自主的に行動できる学級づくり。（4年）
- 県教研の報告
- (9) 第9回研究会 授業研究
 - ・グループエンカウンターを使った学級活動学活「自由に発想し，考えを聞き合おう」（2年）
- (10) 第10回研究会 実践発表・総括
 - ・一人ひとりの自立をめざした班や給食活動などにおける具体的な取り組み（1年）
 - ・朝の会や帰りの会，当番活動を通じた実践と学級活動の取り組みの紹介（1年）
 - ・日常的な取り組みとグループでの話し合いを重点においた授業実践の紹介今年度の総括 成果と課題（5年）

Ⅲ 成果と課題

1 成果

- ・各自の実践レポートは，日常なさまざまな生活場面で活用できるものがあり，今後の学級づくりに参考となった。
- ・低・高に分かれてのグループ討議は，より近い学年同士の話し合いができたので大変良かった。
- ・自治的な活動の手立てとして，学級会の持ち方や，生活班・学習班の使い方，めあての立て方と振り返りなど具体的な方策について，研究を深めることができた。
- ・学級づくりの悩みや抱えている問題などを出し合うことで，自分だけの悩みとせずみんなでも考えることができた。アドバイスをもらうことで解決策となることもあった。
- ・講師を招いた学習会は，人間関係を良好にするためのアサーショントレーニングやグループエンカウンターの実践を学んだりして大変有意義だった。
- ・9月の研究授業を通して，自治的な話し合いを活発にするための手立てとして，学級会マニュアルや話し合いカード，事前の計画委員の指導が大変有効的であることがわかった。
- ・1月の授業研では，夏季学習会で学習したエンカウンターの実践が研究授業の中に生かすことができた。

2 課題

- ・学級活動やエンカウンターを利用した授業の指導案の書き方について共通理解やその点の研究を深めていったらどうか。
- ・エンカウンター，学級会の進め方，楽しい学級づくりのための方法，クラスの実態をつかむための調査（QU）等，全体で統一した研究をしてもよいのではないか。
- ・学級づくりの提案は，課題をもつ児童に焦点を絞り，どんな手立てをして，どうして変容したのか，どんな成果がみられたかを主にレポートするとさらによい。